

I ま え が き

令和元年度の一般会計の決算額は、歳入総額が7,397億6,300万円、歳出総額が7,367億500万円となり、歳入・歳出とも増となりました。

歳入総額については、前年度決算額と比較すると3.4%の増となっています。

これは、市税や幼児教育・保育の無償化に伴う国県支出金の増などがあったことによるものです。

歳出総額については、前年度決算額と比較すると3.3%の増となりました。

これは、産学交流・研究開発施設（AIRBIC）の取得完了による経済労働費の減、京浜急行大師線連続立体交差事業の減による建設緑政費の減の一方で、民間保育所運営費の増や幼児教育・保育の無償化によるこども未来費の増、障害者(児)介護給付等事業費の増による健康福祉費の増などによるものです。

また、歳入歳出差引額から、令和2年度への繰越事業に充当する繰越財源を差し引いた実質収支額、いわゆる剰余金は1億8,300万円となりました。

市税収入については、法人市民税における企業収益の減少による減の一方、個人市民税における納税者数及び所得の増加に加えて県費負担教職員の市費移管に伴う税源移譲分の交付金からの移行などによる増、固定資産税における家屋の新增築などにより、7年連続の増収で6年連続の過去最高となりましたが、社会保障や防災・減災対策、都市機能の充実など、将来も見据えて乗り越えなければならない課題に的確に対応するため、減債基金からの95億円の新規借入を行いました。これにより、借入の累計は527億円となっており、引き続き厳しい財政状況となっています。

このような状況においても、多様化する課題への的確な対応など、必要な施策・事業の着実な推進と、財政の健全化による持続可能な行財政基盤の構築の両立に向けた財政運営を進めてまいります。

以下、令和元年度決算のあらまし、並びに、令和2年度上半期予算執行のあらましについてご説明いたします。